

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正 )

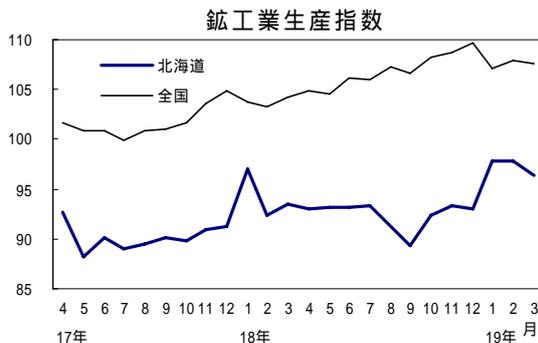
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 19 年 2 月)	今回 (平成 19 年 5 月)	
住宅建設	減少	大幅に減少	

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を下回っており、水産業の水揚量は前年を上回っている。  
生乳生産は、牛乳等向けは増加したものの、乳製品向けが減少したことから、総量では、927,390t と前年比で 2.2% 減となった。水産業(主要 8 港)は、ほっけ及びするめいかの水揚量が前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。  
食料品・たばこは、塩蔵品や冷凍水産物が伸びたことから、増加している。パルプ・紙は、印刷用紙(塗工)や新聞巻取紙の需要がおう盛なことから増加している。電気機械は、携帯電話向けの水晶振動子や無線通信装置が好調であったことから増加している。窯業・土石は、マンション建築向けのパイルが好調だったことから増加している。金属製品は、工場建設が終了したことにより受注が一服したことから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
食料品・たばこ	26.5	2.7	3.9	6.1	2.5
パルプ・紙	12.1	3.0	5.5	1.3	2.7
電気機械	9.5	9.7	10.5	8.7	33.8
窯業・土石	9.0	3.6	1.1	2.2	1.9
金属製品	9.0	16.1	3.7	0.2	1.2
鉱工業	100.0	1.6	4.8	4.0	2.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

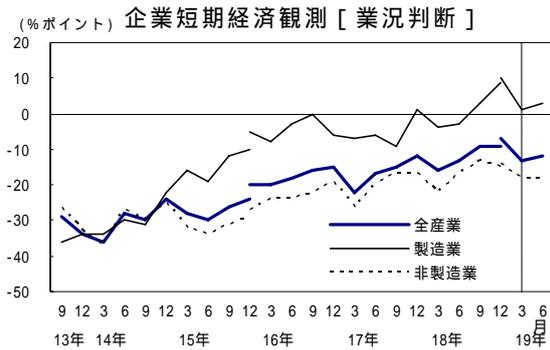
2. 1~3 月期は速報値。

(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

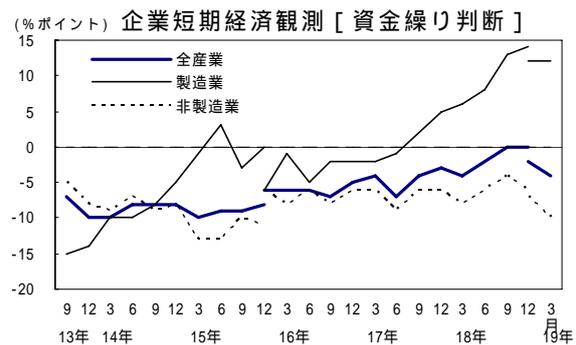
2. 平成 19 年 3 月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

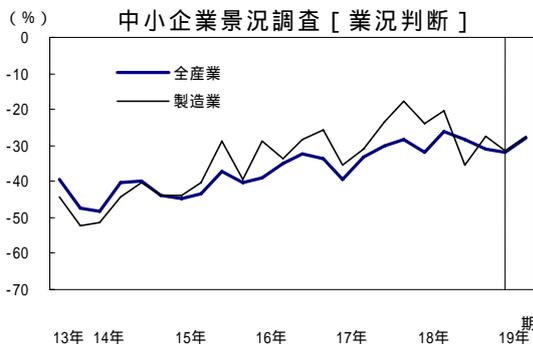
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

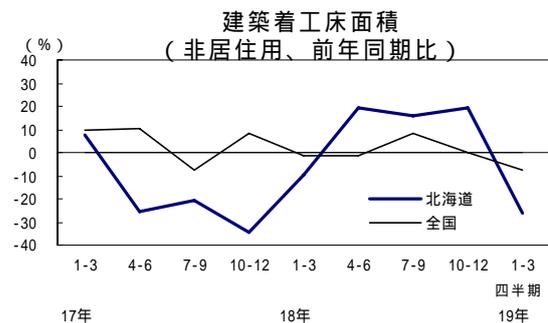
「製紙業、医薬飲料業、飼料肥料業、酪農業等の得意先に大きな変化はみられない。ただ、飼料製品は輸入原料の高騰が見込まれているため、農家の引取りが順調に推移している(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 18年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

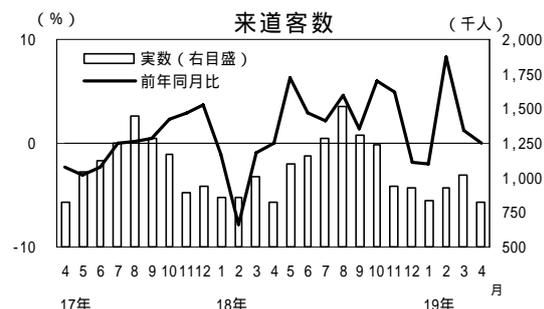
	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度値
全産業	9.1( 2.8)	1.8
製造業	22.7( 6.8)	3.0
非製造業	1.4( 1.0)	3.9

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は増加している。

来道客数は、雪不足の影響でスキー場の開業が遅れたことから、12月、1月は前年を下回ったものの、2月、3月は札幌・旭川を中心に入り込みが好調なため、増加した。4月は前年並みとなっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

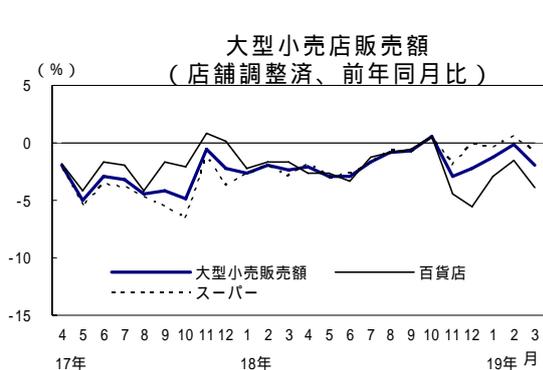
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセールは天候に恵まれ好調だったが、月後半は暖冬により冬物衣料品が伸び悩み、全体としては前年を下回った。2月は、節分、バレンタインなどの季節食材が好調であり、暖冬の影響から春物衣料品も好調であったが、改装工事の影響もあり、全体としては前年を下回った。3月は、前年と比べて気温が低く春物衣料が低調だったため、全体としては5か月連続で前年を下回っている。

スーパーは、有機野菜、無添加食品などの売上が伸びているが、天候不順により衣料品の動きが不調だったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

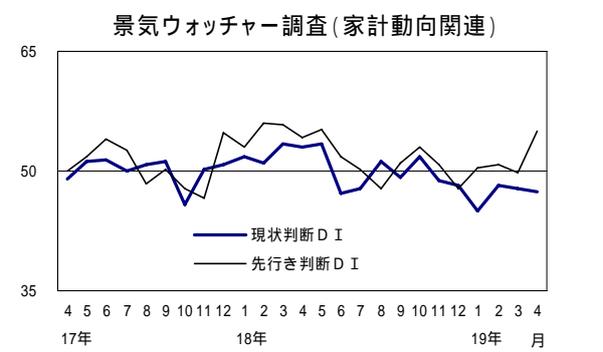
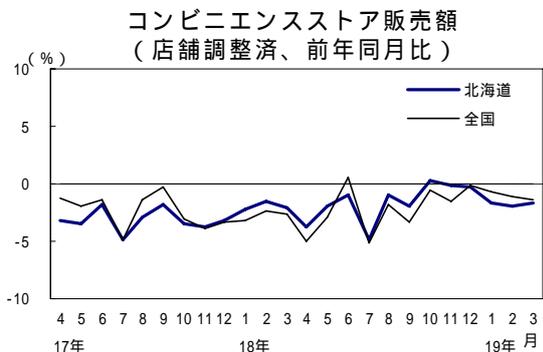
「平年と比べて気温が低く推移した影響もあり、婦人ファッションの売上が増えてこない。例年であれば、新生活に対応したインテリアなど、生活雑貨需要が伸びる月であるが、今年の勢いは今一歩である(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	2.6	1.0	1.6	1.2
百貨店	2.9	1.0	3.4	2.9
スーパー	2.5	1.1	0.6	0.3
コンビニ	2.2	2.6	0.1	1.7
景気ウォッチャー	51.2	49.5	49.5	47.0

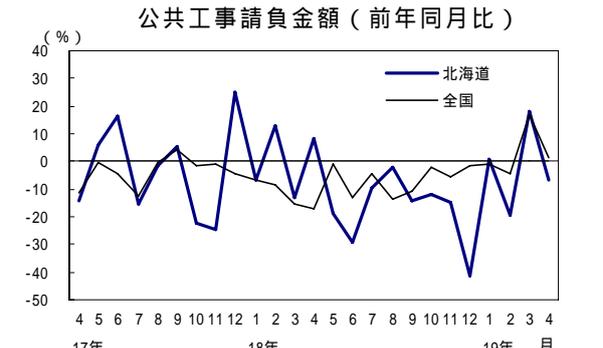
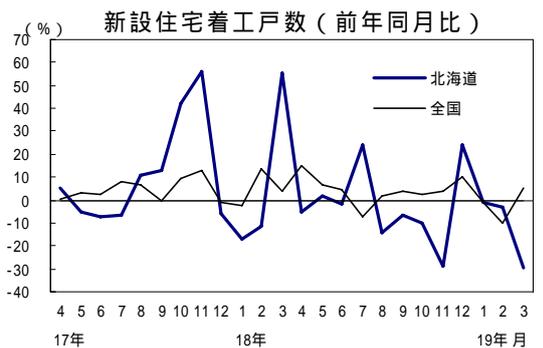
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲は前年を上回ったものの、貸家、持家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

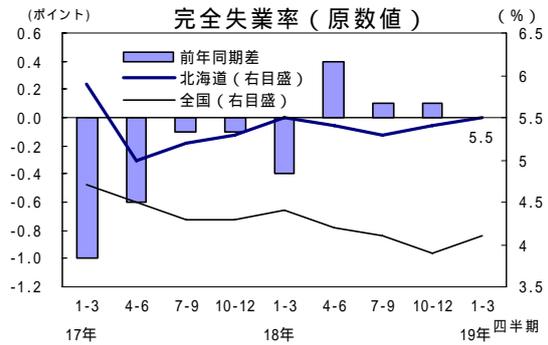
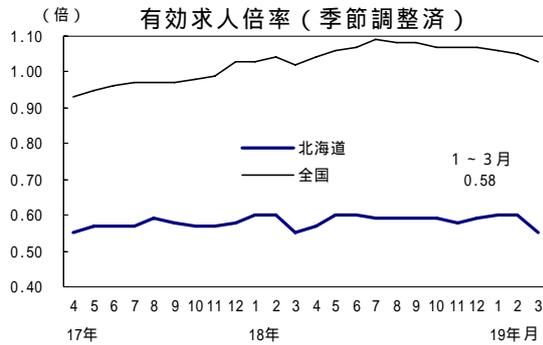


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準である。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

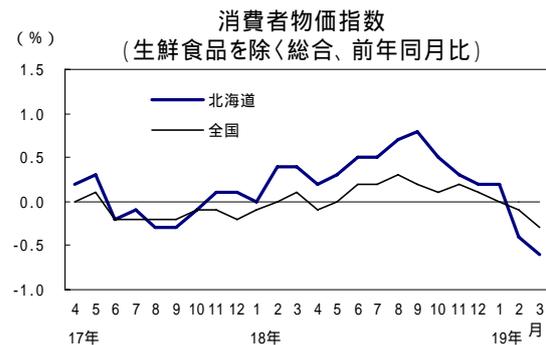
「本州、特に名古屋周辺を含めた中部地域への派遣請負の求人件数が増加しているものの、地元の求人件数に伸びはみられない (求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	143	112	132	159	47
(前年比)	8.3	21.1	4.3	11.2	21.7
負債総額	459	567	1,687	708	139
(前年比)	73.4	34.7	349.1	50.3	26.2



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・道外客の入込は順調であることに加えて、地元客にも動きが出てきている。宿泊単価も、シーズンオフであるにもかかわらず高い水準にある(観光型ホテル)。

<先行き>

- ・原料価格の高止まりから企業収益は厳しい。官民ともに所得は伸び悩んでおり、個人消費は弱めの動きが続いている。一方で、来年のサミット開催地が洞爺湖町に決定したことで、夏以降の観光客の増加が期待できる。総じてみれば景気は横ばいで推移する(金融業)。

景気ウォッチャー調査 (合計)

